

研究主題

主体的・協働的に学ぶ授業を通して、思いや考えを深める児童の育成

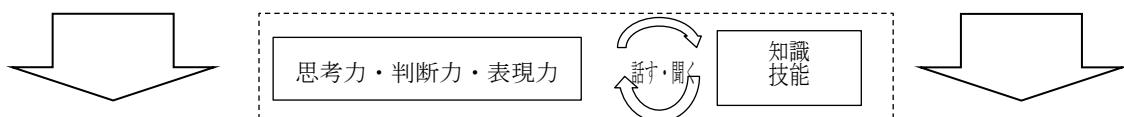
久我山分科会提案資料

児童の実態

4年生2人、5年生3人、6年生2人の合計7人のグループである。4年生は、話を聞くことが苦手で、内容の理解が難しく、聞くことに集中できていないことが多い。考え方や質問のしかたなども、その場に応じて訂正して言わせている。5年生は聞くことも答えることができるが、生活経験の少なさから答える内容が乏しいこともある。5年生の1人は分からぬときには質問することが苦手である。6年生は、教師の話も友達の話もよく聞いている。想像して答えるような内容は、苦手であるが実際の経験していることは話せる。4年生は聞くことも答えることも苦手な傾向がある。

児童に付けたい力（指導事項）

- ◎身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。（ア）
- ◎相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えること。（イ）
- ◎話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。（エ）



分科会テーマ

「わかる！できる！活動」を通して、思いを伝え合う児童の育成

テーマに迫るために（年間を通じて意識的に取り組む手立て）

- ・各単元で指導事項を明確化し、その項目を重点的に指導する。また指導事項にふさわしい言語活動を、単元を貫いて位置づけることで、目的をもって話すこと・聞くことの活動に取り組ませている。

	教材名	指導重点事項	言語活動
5月	しりとりをしよう	友達の発言をよく聞く。 自分の順番に話す。	しりとり遊び ヒントを出す。
6月	言葉集めをしよう	条件をよく聞いて考える。 自分の順番に答える。	文字数を決めて、身の回りや知っている言葉の中から答える。
9月 10月	よく聞いて答えよう①	質問をよく聞いて、自分の考えを答える。	聞き取りワーク 音読の間違い探し 質問ゲーム
11月	よく聞いて答えよう②	質問したいことを考える。聞いたことからさらに質問する。	自分たちで考えた質問に質問ゲームで答える
1月	インタビューをしよう	聞きたいことを適切に尋ねる。 メモをしながら聞く。	学級文集の先生のページを、インタビューしながら作成する。

日常活動の取組として

- ・月曜の全体の朝の会で、土日の話を発表したり質問をしたりする。
- ・学級での朝の会で予定を聞いて、理解をしているか質問されたことに答える。自分で分からぬことを質問する。
- ・運動会でがんばりたいこと、1学期に楽しかったこと、夏休みのめあてなど、みんなの前で発表し、聞き取ったことを発表させたり、質問をさせたりする。

久我山学級 国語科學習指導案

日時 令和元年11月29日(水)第5校時
対象 第4学年2名 第5学年3名
第6学年2名 合計7名
授業者 山田 真利江

1 単元名

「よく聞いて答えよう」 (15時間)

2 単元の目標

- ・日常生活に必要な言葉の語彙を増やし、質問の仕方や答え方を身に付ける。(知識・技能)
- ・質問されたことに対して、質問の意味が分かり、体験したこと思い出してみんなに伝えることができる。(思考・判断・表現)
- ・質問を考えたり、自分で選んだりすることを通して、友達との言葉のやり取りを楽しむことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	・日常生活に必要な言葉の語彙を増やし、質問の仕方や答え方を身に付ける。	・質問されたことに対して質問の意味が分かり、体験したこと思い出してみんなに分かるように伝えることができる。	・質問を考えたり、自分で選んだりすることを通して、友達との言葉のやり取りを楽しむことができる。
学習活動に即した具体的な評価規準	①質問の仕方や分からないときの答え方などが分かり、実際に使おうとする。 ②色々な質問に答えながら、自分の言いたいことを適切に伝えられるようになる。	①質問の意味が分からないときを確認しようとする。 ②自分の思いを何とか伝えようとする。	①友達に聞こえるように伝えようとする。 ②友達とのやり取りを楽しんで学習する。

4 単元構想

(1) 児童について(児童観)

久我山学級(特別支援学級・知的固定)は、国語と算数は能力別にグループを編成して学習している。本グループは4年生2名、5年生3名、6年生2名の7名で構成され能力的には学級で一番高いグループである。学習の目標や内容は、特別支援学校学習指導要領を参考にしながら小学校

学習指導要領に準じている。また、学年に捕らわれず児童の実態に合わせて学習の内容を下げて学習している。大体1年生後半から2年生くらいの内容を学習している。

「話す・聞く」ということに関しては、本グループは、簡単な単語を集中して聞きとることはできるが、少し長い話の中で、大切なことを理解して覚えて答えることは苦手な児童が多い。1学期に行ったしりとりや言葉集めでは、聞くだけでなく、板書をして視覚的にも前に言った言葉を確認できるようにして授業を進めた。簡単な質問には、答えることができる児童が多い。しかし、適切に答えられなかつたり、分からぬときに黙つてしまつたりする児童もいる。その都度聞き方や答え方を指導してきた。さらに、友達と同じ話題で話を続けていくことが難しく、一方的なやり取りになりがちである。また、経験したことがないことをイメージしたり、「もし~だったら」と仮定の話を考えたりする経験も少ないので、色々な種類の質問を準備して考える経験を学習活動に取り入れた。友達の話をよく聞いたり、順番に答えたりすることを通して、同じ話題で友達と会話をするスキルを身に付け、話をする楽しさを味わわせたい。

(2) 話題について(学習材観)

聞くことでは、まず、聞き取りワークシートを活用して、しっかり聞き取る学習をする。教師が話す言葉を聞き取って、言われた動作をしたり、ワークシートに書き込んだりする。2つ目の教材は、毎週行っている音読の文章を使って、間違い探しをする。教師がわざと間違った言葉に置き換えて読んでいくが、違うと思ったら、挙手をして正しい言葉を言う。音読の中の大事な言葉が意識されるようを行う。この活動のあと、次時に文章からの読み取りを行っている。3つ目は、話すことをメインにした「質問ゲーム」を行う。箱の中に入った質問の紙を一人ずつ順番に引き、みんなに質問をする。友達を指名しながら進めるが、手を挙げていなくても、全員に答えてもらうことで、誰が答えたかを覚えていて指名していく。分からぬものには、「わかりません。」と答てもよいということを全員で確認している。

1時間の流れは、聞くことに関しては、「集中して聞く。聞きながら作業をする。文章を読みながら聞く。友達の考えをよく聞く。」という活動である。話すことに関しては、質問ゲームの中で、「質問をする。友達を当てる。考えて答える」という活動をしている。児童は、比較的この活動を好んでおり、国語のときには、「質問ゲームがやりたい。」と活動をせがむことがあるが、「話すこと・聞くこと」に特化した学習は週に1時間の割合で行っているため、単元として連続で行っているわけではない。

質問には、自分も答えるたいという思いをもっているので、質問する人も、最後に自分の考えを発表することにしている。カードが入っている箱(ブラックボックス)も気に入っているため次の人に「はい、どうぞ」と言って喜んで大切に渡している。

(3) 単元について(単元観)

「話すこと・聞くこと」は、日常の生活の中でとても大切なスキルである。日常的にも、話したり聞いたりする練習は、なかよしタイム(特別の教科 道徳)などでも、ソーシャルスキルとして行うこともある。1学期は、順番に答えていく学習として、前の人の言葉を受けて考える「しりとり」や条件を理解して答える「言葉集め」を行った。2学期に設定した「よく聞いて答えよう」は友達とのコミュニケーションにもつながり、お互いをよく知り合うきっかけにもなると考えている。毎週行っている週末の出来事発表での、友達への質問は「だれと行きましたか。」「何を食べましたか。」「どうやってで行きましたか。」などいつも同じことが多くワン

パターンになっている。自己紹介の一言アピールでも「好きな〇〇」という話題が多い。普段はしないような様々な質問に答えることで、自分のことを知るきっかけになったり、考えたこともないことを考えることにチャレンジしたりしてほしい。また、自分の考えをみんなに発表する楽しさも味わわせたい。さらに、友達の答えを聞いて質問をする際、詳しく聞いてみたいときなどは、どのように聞けば会話がつながっていくのかということも今後インタビューの単元では学習させていきたい。

5 研究主題に迫るために

研究主題である「主体的・協働的に学ぶ授業」を本分科会では、「わかる！できる！活動」とした。知的固定級である本学級では、障害特性上、人との関わりが難しい児童が多く、そのような児童でも、経験したことのある活動や見通しがはっきりとした活動には、「わかるからやりたい！」「できそだからやってみたい！」という前向きな気持ちをもつことができる。このような実態から前向きに取り組める「わかる！できる！活動」を通して、教師や友達とかかわり、思いを伝え合えるように以下の点を工夫した。

(1) 「わかる」工夫

単元の中で繰り返し「質問を作る」「質問ゲームをする」という活動を行うことで、何をするのかということがどの児童にも分かり、見通しをもって取り組むことができる。また、1時間の授業をパターン化して内容を構成することで、次は何を学習するのか1時間の流れが分かり、安心して学習に取り組めるようにしている。

(2) 「できる」工夫

質問の意味がわからないときや答え方がわからないときには、どう答えたらよいのかを具体的に示し、練習をすることで、安心して課題に取り組めるようにした。学習しながら児童と確認していった聞き方や話し方の手立てを「これができたら一番いいね！」と言うことで「聞き方MAX・話し方MAX」として掲示し、必要に応じて、自分で見られるようにした。

話したり聞いたりする活動を1時間の授業の中で様々行うことで、集中力を維持できるようにした。

(3) 「話したい聞きたい」と思わせる工夫

- ・質問カードを参考にしながら、自分たちも質問のカードを作る活動を入れた。

自分たちで友達に聞きたいことを考えさせ、思いを伝え合う楽しさが実感できるようにした。

今後の日常生活の中でも、友達に聞きたいことがあつたら聞いてもよいことや、どんな聞き方をすればよいのかということを学習し、自分の質問に答えてくれる楽しさを味わえるようにした。

- ・ブラックボックスの中に、質問カードを入れておくことで、カードを引きたいという思いをもたせた。
- ・自分で考えた質問カードがあることで、自分の質問が出てくるかもしれないというワクワク感をもたせた。

6 単元計画

過程 (次)	時	主な学習活動	指導事項	◆評価規準 ★評価方法
1	1	○聞き取りワーク	・よく聞いて答える。	◆友達に聞こえるように伝えようとする。 (ウ) ◆質問の仕方や分からなときの答え方などが分かり使おうとする。 (ア) ★観察 ★ワークシート
	2	○聞き取りワーク	・数えながら聞く。	
	3	○音読間違探し ○質問ゲーム	・注意して聞く。 ・質問をよく聞いて、答える。	
	4	○音読間違探し ○質問ゲーム		
2	5	○質問を作る ○質問ゲーム	・「～は好きですか」「好きな〇〇は何ですか」で質問を作る。	◆友達に聞こえるように伝えようとする。 (ウ) ◆質問の意味が分からなとき確認しようとする。 (イ) ★観察 ★質問カード
	6		・どのように答えてよいか分からなときの答え方を知る。	
	7		・よい聞き方話し方を考える。	
	8	○質問を作る ・質問のなかま分けをする。	・好き以外の質問があることを知る。	
	9	○質問ゲーム	・聞き方 MAX・話し方 MAX を参考によい聞き方話し方をやってみる。	
	10	・自分たちで作った問題に答える。		
	11	・たくさんある質問から問題を選んで、質問ゲームをする。	・好き以外の質問を選んで質問ゲームをする。	
	12			
	13	○質問を作る	・「～するしたら何がいいですか。」を加えて考えさせる。	◆友達とのやり取りを楽しんで学習する。 (ウ) ◆色々な質問に答えながら、自分の言いたいことを適切に伝えられるようになる。 (ア) ◆自分の思いを何とか伝えようとする。 (イ) ★観察 ★質問カード ★振り返りカード
	14	○質問ゲーム		
本時				
15				

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・質問をよく聞いて答える。
- ・自分の思いを何とか伝えようとする。

(2) 本時の展開

学習活動 (どんな活動をするのか)	指導上の留意点	◆評価規準 ★評価方法
よく聞いて答えよう		
1 聞き取りゲーム（10分） ・命令ゲームをする。（動作で表現） ・3ヒントクイズをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを説明するときに、ワークシートの内容を確認してから始める。 ・始めと終わりが分かるように合図をする。（A・B・C） ・答えを呟かないように確認する。 	★ワークシート ★観察
2 音読間違探し（10分） ・段落ごとに交代して全員読む。 ・教師の読みを聞いて、間違いを探す。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が何段落目を読むのかが分からなくなる児童には、声をかける。（B） ・挙手をして素早く正しい答えを言わせる。 	◆声の大きさや速さに気を付けて音読している。（B・C） ◆聞いて間違いに気づく。（A・D・E・F・G） ★観察
3 質問ゲーム（20分） ・考えた質問が入っていることを確認する。 ・スタートを決める。 ・順番に質問カードを選んで質問する。 ・質問に答える。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた質問カードを確認させて、何を書いていたか思い出させる。 ・全員が答えられるように、挙手をしていない児童も当てるように声をかける。 ・質問が分かっていないときは繰り返し読ませる。（A・C・D・E・F・G） ・友達が答えたことに対して、質問をしたり、呟いたりしてもよいことを確認しておく。 	◆色々な質問に答えながら、自分の言いたいことを適切に伝えられるようになる。（A・C・D・E・F・G） ◆自分の思いを何とか伝えようとする。（全） ◆友達に聞こえるように伝えようとする。（B・G） ◆友達とのやり取りを楽しんで学習する。（全） ★観察
4 学習の振り返り（5分）	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り表に記入させて、感想を聞く。 	★振り返りカード

資料①

聞き取りワークシートをつかった聞き取りゲーム

時	内容
1	似ている音をよく聞こう。 うま・くま かめ・あめ かに・わに
2	いくつの音でできているのか。音かぞえ くるま③ いす② 魚③ かぶとむし⑤ しんかんせん⑥
3	言われたことばをよく聞こう
4	●キーワードかぞえ
5	今から読むお話に「パン」という言葉が、いくつ出てくるでしょうか。かぞえましょう。
6	「ほん」「おさら」 今回のキーワードは、「ひとの名前」です。人の名前が出てきたらすべてかぞえましょう。 「文房具」「色」
7	●あてはまる絵にしるしをつけよう 4つの「動物」の絵を準備して、「赤鉛筆でぞうに○をしましょう。」「およぐのがじょうずな動物に△をつけましょう。」
8	「やさい・くだもの」「どうぶつ9つ」「やさい・くだもの9つ」
9	●あてはまる絵を選ぼう
10	かんたくんは日曜日に水族館に行きました。どんな水槽を見たのか、かんたくんが教えてくれました。「ぼくが見たのは、いかとタコがいる水槽だよ」かんたくんが見た「水槽に」○をつけましょう。
11	「お母さんが買ったもの」 「いろいろな形」(右上, 右下, 左上, 左下, それぞれの場所に○△☆◇) 「運動会にでた種目の順番」
12	●指令ゲーム (命令ゲーム) これから指令ゲームをやります。言われた通りに身体を動かしてください。 「両手をあげてください。」「怒った顔をしてください。」「口を開けてください。」
13	「右手をパーに, 左手をグーにしてください。」
14	●3ヒントゲーム
15	テーマ「公園」いくつか描いてある絵の中から選ぶ。 「①かたいものです。②ぶらさがることができます。③まわることができます。鉄棒」 「①座るものです。②立つこともできます。③こぐと揺れるものです。ブランコ」 「①座るおのです。②2人でのります。③体が重い人は下に下がります。シーソー」 テーマ「夏のもの」「お祭り」「お正月」

参考 「ワーキングメモリーとコミュニケーションの基礎を育てる聞き取りワークシート」

①言われたことをよく聞こう編

LD発達相談センターかながわ 編著 かもがわ出版